日本生活指導学会　第40回大会
課題研究C
「評価」の観点から生活指導実践の価値を問う

市民活動評価のオルタナティブ としての「ふりかえり評価」

～自分自身の価値観に基づく発言ができる機会を保障する～

一般社団法人よだか総合研究所　理事
小池達也
tatsuyaoffice@gmail.com

日本語で「評価」と言われているもの

広告宣伝・PR

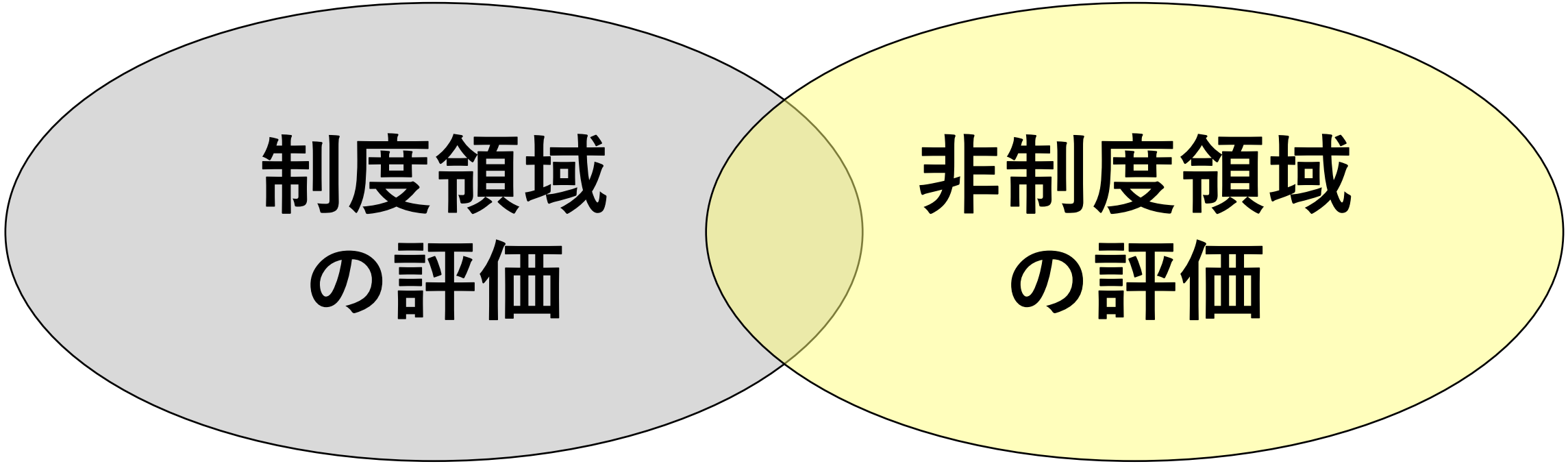
ふりかえり・学び

審査・査定　　説明責任

手法の一般化・妥当性検証

賞賛・表彰

0 前提：制度と非制度



1 チェックイン

1 チェックイン｜自己紹介

名前：小池　達也（こいけ　たつや）

所在：岐阜県揖斐川町

肩書：一般社団法人よだか総合研究所　理事

年齢：33歳（3児の父）

目指していること：自分たちの地域を、自分たちで持続可能に運営する

経歴

1988年東京生まれ、岐阜県在住。コミュニティ・ユース・バンクmomo、東海若手起業塾に参画の後、
西濃地域のローカルシンクタンク「よだか総合研究所」を立ち上げ、
当事者の自治や子どもの権利に関する調査研究などの活動を展開する。
2020年から全国の有志メンバーと共に「NPOのビジネス志向と倫理」についての読書会や研究会を開催。
同じく2020年から、各地のNPO支援者と「ふりかえり評価」を開発中。
関市市民活動助成金審査委員、本巣市市民活動助成金審査委員

1 チェックイン｜団体紹介

岐阜県西濃地域にある、
当事者による自治を発見し
醸成するためのローカルシンクタンク
「よだか総研」で活動しています。

よだか総研
Yodakas Research Institute

調査研究、政策提言、出版
市民活動や起業の醸成
権利保障、コミュニティ形成
滞在デザイナー制度

プロジェクト

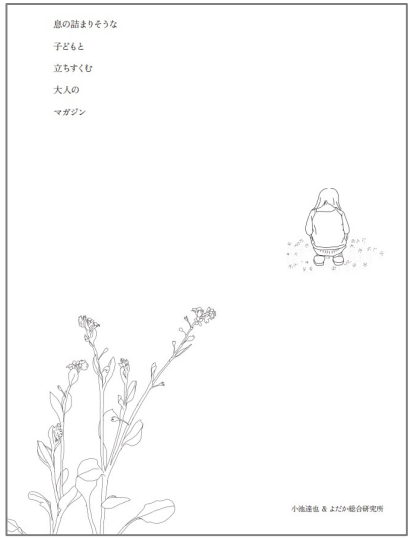
よだかの学校
GIDS
YAMAMORI

1 チェックイン｜出版物の紹介

辺境の思想生活

著者：中原淳　2022年2月発行、現在第二版。

老荘、ルソー、ソロー、トルストイ、石川三四郎など、大地に根付く否定の思想を基礎として、イリイチ、フロム、オルテガ、サイード、ブルデューの議論を踏まえつつ、ベイトソンの生態学やオートポイエーシスを想像しながら、打ち捨てられた辺境で、のんびりとした相互扶助（クロポトキン、 プルードン、 グレーバー）や無縁、アジールを希望するための論考集。



息の詰まりそうな子どもと立ちすくむ大人のマガジン

著者：小池達也＆よだか総合研究所　2022年6月発行予定。

岐阜県本巣市の市民のリアルな声を元に、当地域の「子どもの権利」について、特に「意見表明する権利／参加する権利」に着目して分析・考察した小冊子。

ご購入は、よだか総研のウェブサイトから。

1 チェックイン｜団体紹介：当事者の自治

相談窓口

地域や社会の困りごと、生活の困りごと、なんとかしたいことの相談を受け付ける場所。

市民大学

生きづらさや困りごとなどの問いを元に、学び合う場所。
当事者の学び合い、組織化。

よだかの学校
School of Yodakas

ローカルシンクタンク

当事者の声を顕在化し、当事者と共に、事業を考案したり、政策を作る場所。

よだか総研
Yodakas Research Institute

2 ふりかえり評価の背景

2 ふりかえり評価の背景｜お金の流れ

投資マネーの行先として、公共資金への注目が増加

倫理的投資、インパクト投資、成果連動型民間委託(PFS/SIB)…

投資関係者が、公共領域の新たな「利害関係者」として登場

投資スキームと強固に連動した評価手法が拡大

SROI（社会的投資収益率）、社会的インパクト評価…

短期的に変化が生まれる、測りやすい側面に、視線と期待が集中

受益者の意思から資金調達へ、NPOの立脚点がズレていく

ズレは強制ではなく、NPO自身の意思として生じていく（自己訓致）

評価が高難易度化し、専門家し、大多数の人々は参加できなくなる

2 ふりかえり評価の背景｜問題意識

NPOは、多様なステークホルダーの参加によって成立している

受益者、支援者（ボランティア、寄付者、資金提供者）、団体内部（代表、理事、スタッフ）など。

受益者（被支援者）のニーズも多様。もちろん、価値観も多様。

一方で、多くのNPO関係者にとって、自由に意見を述べる機会は少ない

NPOであっても、「自分自身の価値観」に基づく発言ができる機会は限られている

（ましてや、教育など、他の場面ではどうなのか？？？？）

2 ふりかえり評価の背景｜NPOの状況(1)　実施概要

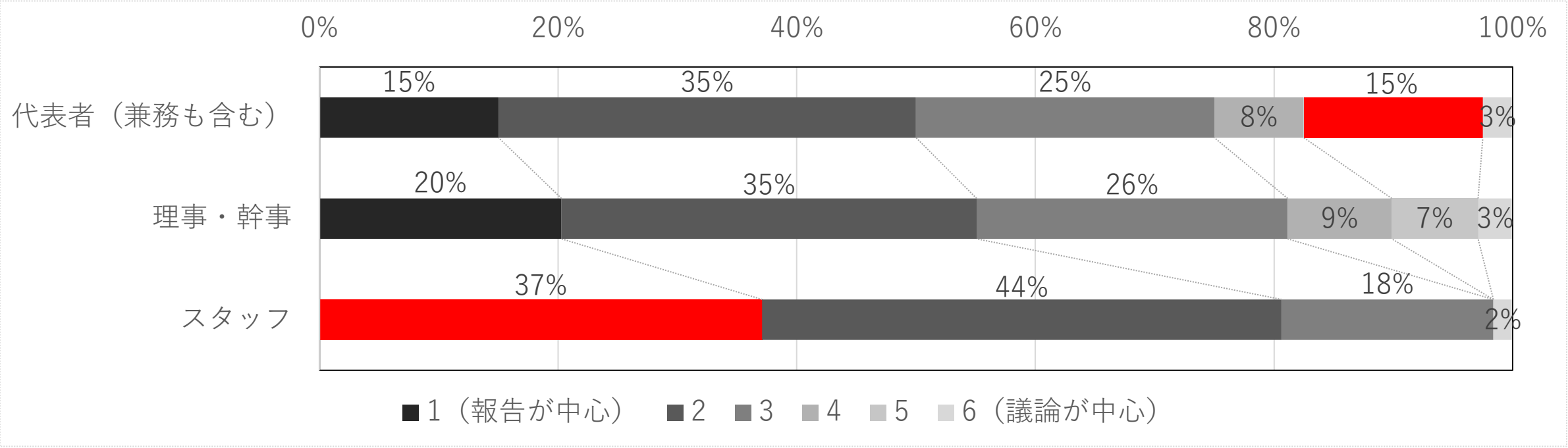
項目	内容
調査期間	2020年9月2日（水）～10月4日（日）
対象	非営利組織（NPO法人、社団法人、任意団体）の役員もしくはスタッフ ※実施主体からの依頼・案内により回答
方法	WEBアンケート（Googleフォーム）
回答者	198名
回答URL	https://forms.gle/JnhTHCwwhvmAiPjE8

有意に高い

有意に低い

2 ふりかえり評価の背景｜NPOの状況(2)　総会は議論の場？

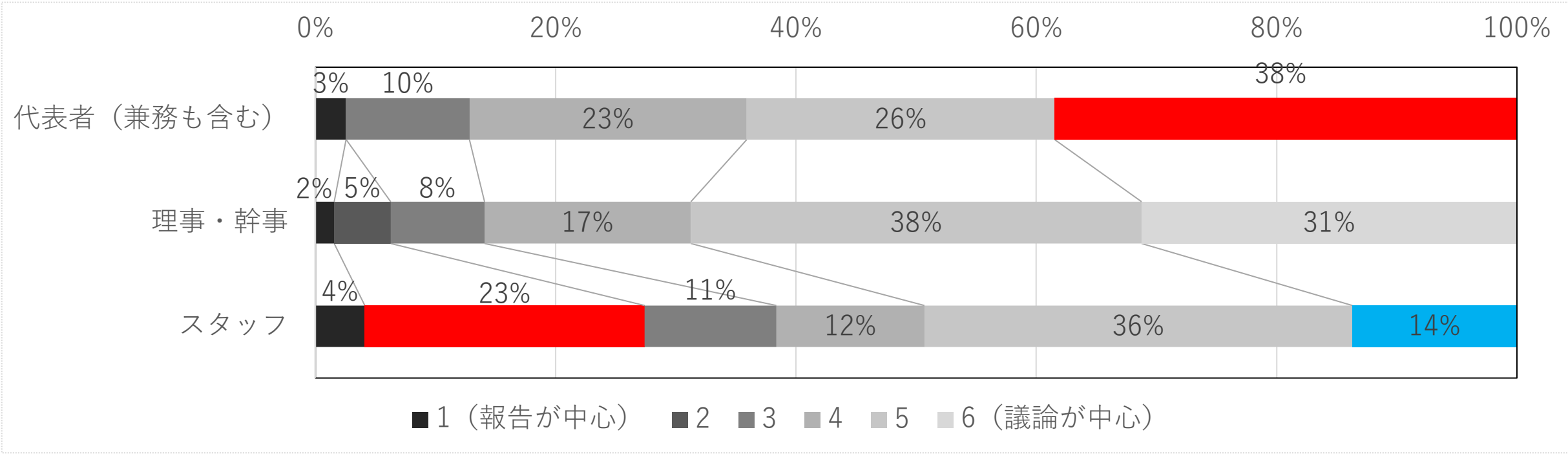
Q2-2　前問で「総会に出席した」と答えた方にお聞きします。総会の報告と議論のバランスのうち、最も近いものを選択してください。（n=171）



χ^2検定の結果、有意な偏りが認められた（$\chi^2(10)=21.746, p<.05$）。
残差分析の結果、代表者は、5と答える割合が有意に高かった。
また、スタッフは、4もしくは5と答える割合が有意に低く、1と答える割合が有意に高かった。

2 ふりかえり評価の背景｜NPOの状況(3)　ミーティングや会議は議論の場？

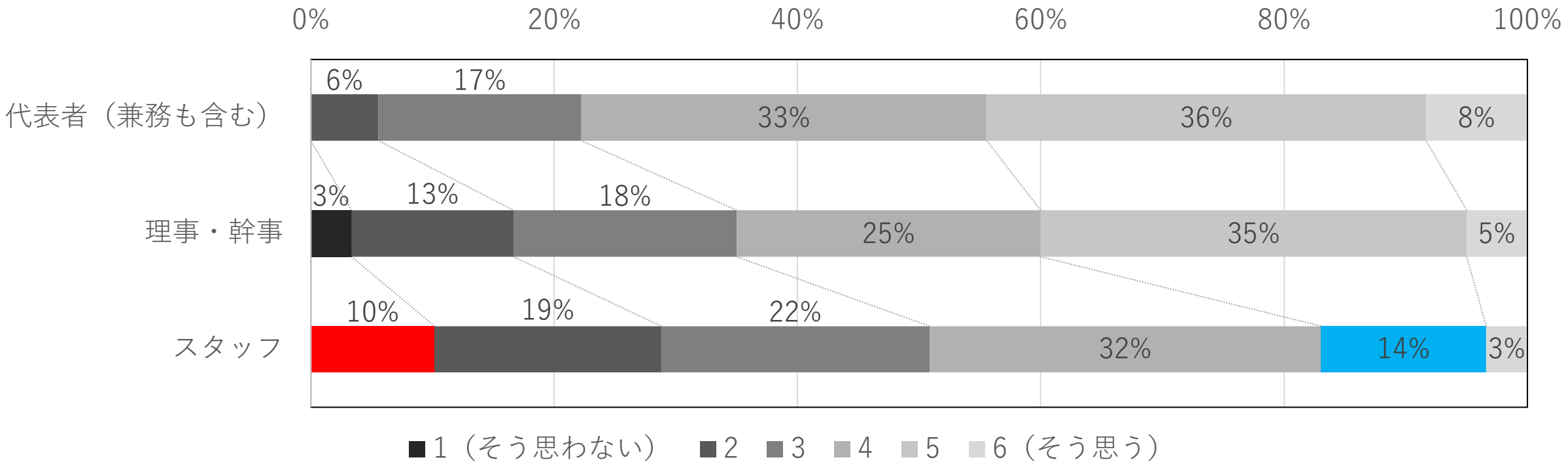
Q2-6　前問で「ミーティングや会議に出席した」と答えた方にお聞きします。スタッフや事務局の会議の報告と議論のバランスのうち、最も近いものを選択してください。（n=176）



χ2検定の結果、有意な偏りが認められた（$\chi 2(10)=27.5, p<.01$）。
残差分析の結果、代表者は、6と答える割合が有意に高かった。
また、スタッフは、6と答える割合が有意に低く、2と答える割合が有意に高かった。

2 ふりかえり評価の背景｜NPOの状況(3)　受益者の意向を反映できている？

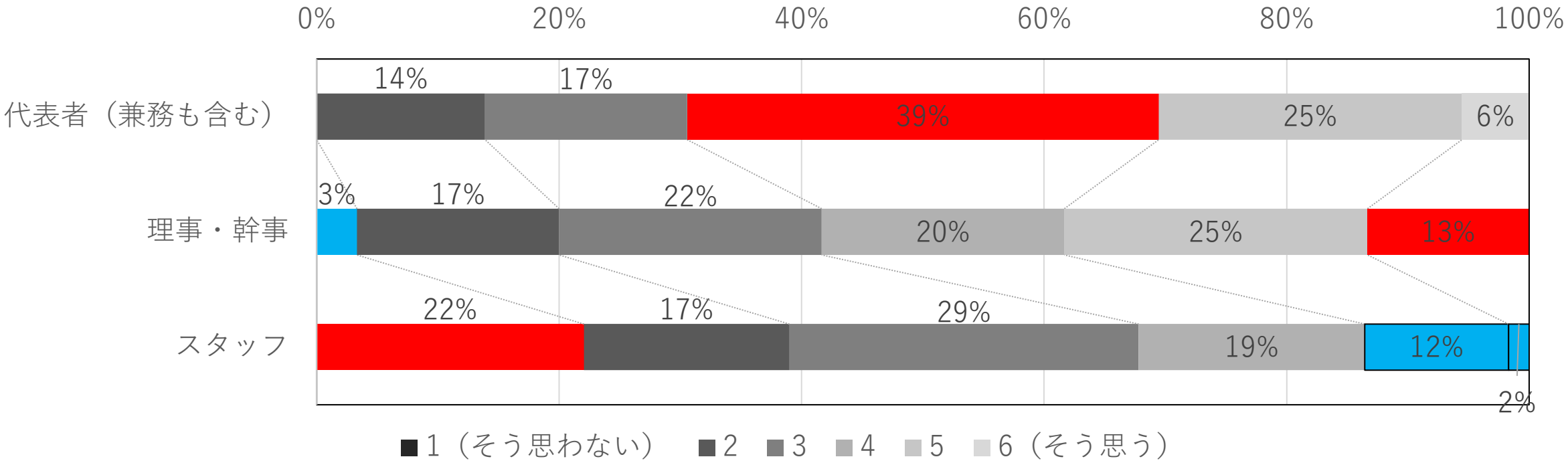
Q3-2　あなたは、受益者の思いや意向が、自団体の意思決定により強く反映されていると感じていますか？（n=191）



χ2検定の結果、有意な偏りが認められた（$\chi 2(10)=16.577, .05<p<.10$）。
残差分析の結果、スタッフは、1と答える割合が有意に高く、5と答える割合が有意に低かった。

2 ふりかえり評価の背景｜NPOの状況(4)　意見を言いにくい人への配慮はある？

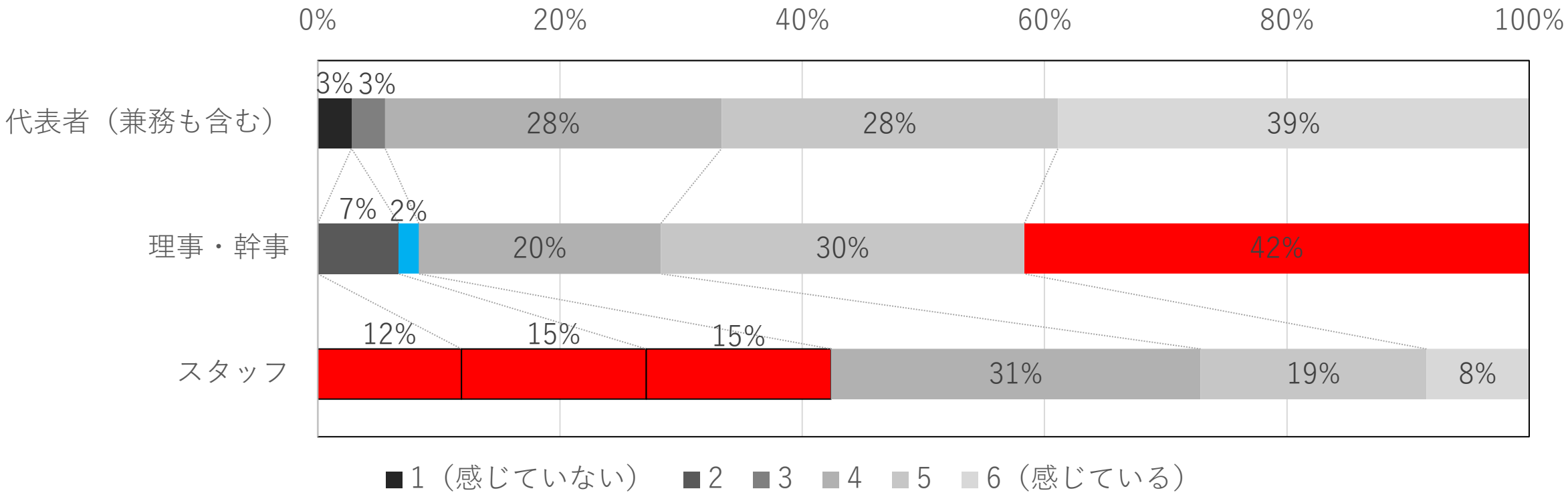
Q3-3　あなたは、自団体の意思決定において、意見を言いにくい人（立場の弱い人や、思いを言葉にしにくい人）への配慮がされており、対等だと感じていますか？（n=191）



χ2検定の結果、有意な偏りが認められた（$\chi 2(10)=30.398, .p<.01$）。
残差分析の結果、代表者は、4と答える割合が有意に高く、1と答える割合が有意に低かった。
理事・幹事は、6と答える割合が有意に高く、1と答える割合が有意に低かった。
スタッフは、5もしくは6と答える割合が有意に低く、1と答える割合が有意に高かった。

2 ふりかえり評価の背景｜NPOの状況(4)　自分の意見が反映されている？

Q6　あなたは、あなたの意見や価値観が、自団体の意思決定に反映されていると感じていますか？（n=191）



χ2検定の結果、有意な偏りが認められた（$\chi 2(10)=40.512, .p<.01$）。
残差分析の結果、代表者は、2と答える割合が有意に低かった。
理事・幹事は、6と答える割合が有意に高く、1あるいは3と答える割合が有意に低かった。
スタッフは、6と答える割合が有意に低く、1、2あるいは3と答える割合が有意に高かった。

2 ふりかえり評価の背景｜NPOの状況(5)　まとめ

NPOに関わる人は、こう感じています。

	代表	スタッフ
議論の場	総会、理事会、日々の会議	少ない
受益者の意向	反映できている	反映できていない
意見を言いにくい人への配慮	ある	ない
自分の意見	反映されている	反映されていない

2 ふりかえり評価の背景｜NPOの状況(6)　抑圧の懸念

このような状況で、

政策決定者や資金提供者などの権力性を持つ関係者が

特段の配慮もなく評価に参加すれば、

受益者や受益者に近いスタッフの価値観やニーズが

一層抑圧されることが考えられる。

3 ふりかえり評価について

3 ふりかえり評価｜目的

「NPOに関わる人々の誰もが、本人が希望すれば、
安心して自分の価値観に基づいて発言できる」ことを、
評価という領域において実現する

想定される反論；どんな意見/価値観も、受け入れなくてはいけない？

NOである。ただし、

市場や行政などの既存の社会システムで実行不可能な価値の実現を目指しているはずのNPOであれば、

特に受益者やスタッフなどの**「権力性や発言力の弱い人」の参加する権利**を担保するべき。

どんな手法であるべきか？

①参加する個人の価値基準に基づきNPOの在り方を見直せる

②専門知識や特別なコストを必要とせず安価かつ簡便に実施できる

③資金提供と強固に紐づけずNPOの自由意志によって実施できる

開発プロセス

開発：2020年4年～2022年6月（トヨタ財団　イニシアティブプログラムより助成）

→試用版の「ふりかえり評価」を開発した。

１）外部から参加する進行役の関与度を限りなく低くした

２）参加者が各自NPOに関わる中で得た個人的な所感やエピソードを「評価結果」として位置付け、定型的な設問を用いて順番に尋ねていく方法を採用した。

３）「他者の意見（評価）は聞くだけとして、上書きや否定しない」というルールを設定した。

実践：全国のNPOで評価実践を行なった（29件、対人支援分野）。

3 ふりかえり評価｜具体的な方法　①ポジティブ

・一人ずつ、順番に語る

・質問や反論はしない

（上書きしない）

私がこれまで嬉しかったことは…です。

3 ふりかえり評価｜具体的な方法　②ネガティブ

・一人ずつ、順番に語る

・質問や反論はしない

（上書きしない）

私がこれまでモヤっとしたことは…です。

3 ふりかえり評価｜具体的な方法　③価値観

・一人ずつ、順番に語る

・質問や反論はしない

（上書きしない）

私がこのNPOで活動する上で大事なことは…です。

いろんな意見を自由に出して、合意できるのか？

合意はしない。収束させない。日々の業務が収束傾向にあるので、ふりかえり評価ではそこまでやらない。

ふりかえり評価では、発言して、共有するだけ。拡散の場という位置付け。

合意がなければ、意味がないのではないか？

「治療法がない病気は、診断も放置もしなくていい」という論理は、あまりにも暴論。

関わる一人一人の自主性を引き出し、結合させ、エンパワーメントさせることに意味がある。

抑圧が繰り返される場合、どうするのか？

「全ての団体で、理想的な結果を生じさせる」のは不可能

抑圧に気付いた人が、抑圧的な団体を離れていくことも重要な「個人のエンパワーメント」プロセス

3 ふりかえり評価｜結果

A：理想的な結果（スタッフ）※ほとんど

普段よりも自分の意見が言いやすかった、いろんな視点があることに気づいた。

このような機会が今後も必要だと感じた。他の人の意見を知ることができて良かった。

B：理想的な結果（代表）

市場や社会からの圧力によって私たちの活動を変えられたくないということが確認できた。

今後のより良い団体運営に活かせる。

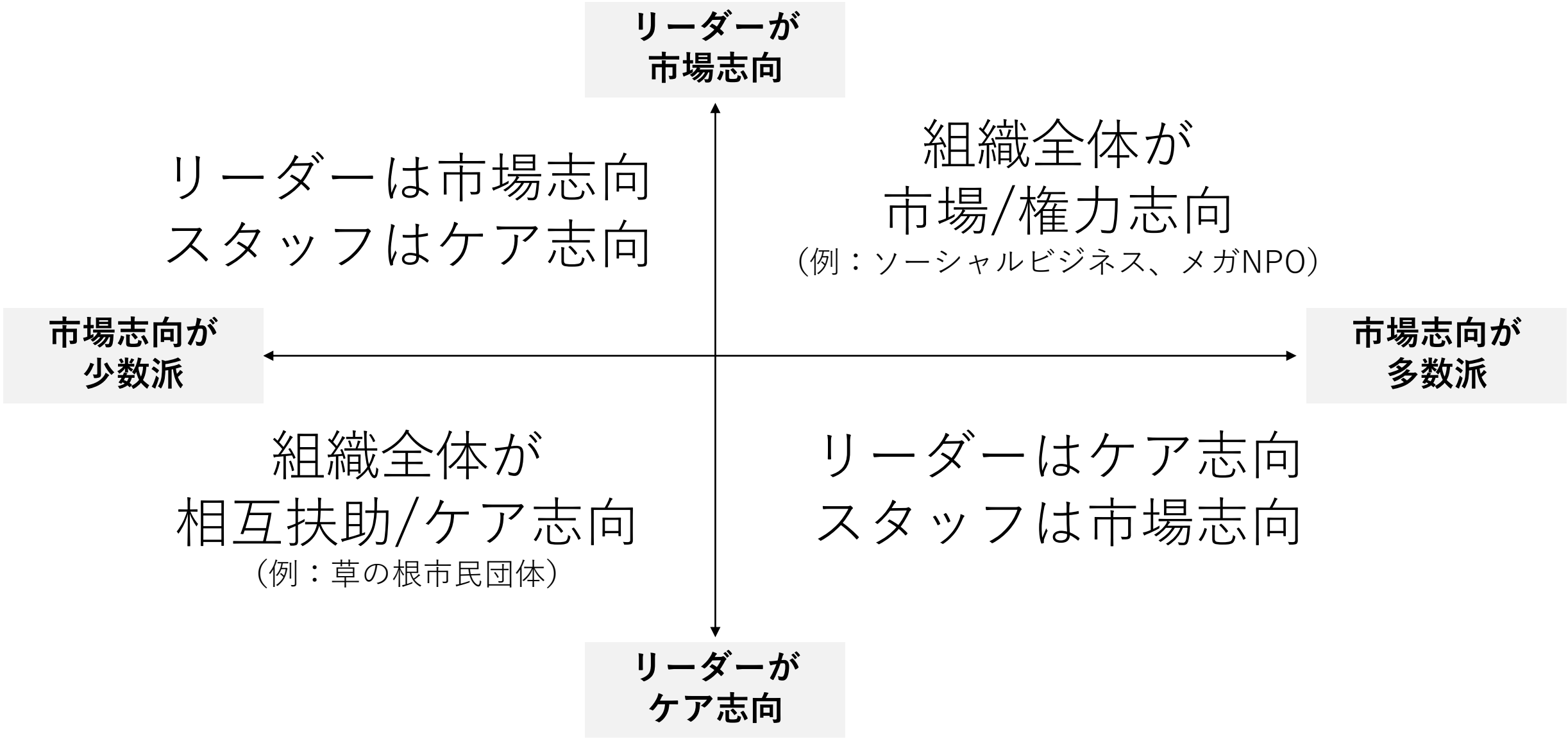
C：理想的ではない結果（代表）

もう決まっていること、これまで話したことなので、今更話すまでもない。

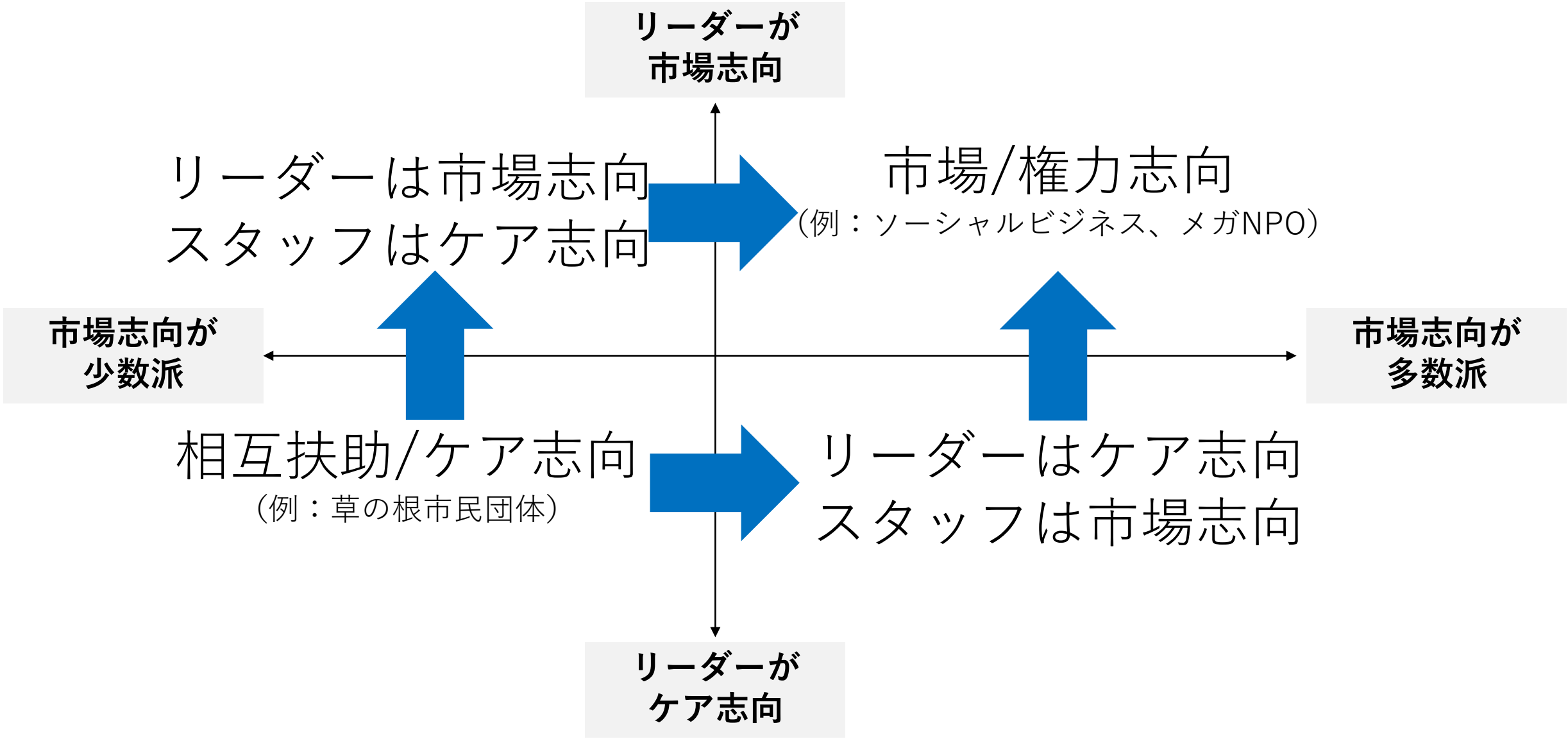
ルールを破って他の参加者の発言を否定する。

団体のビジョンやミッションが十分に浸透していないと気付いた。私の教育不足だ。

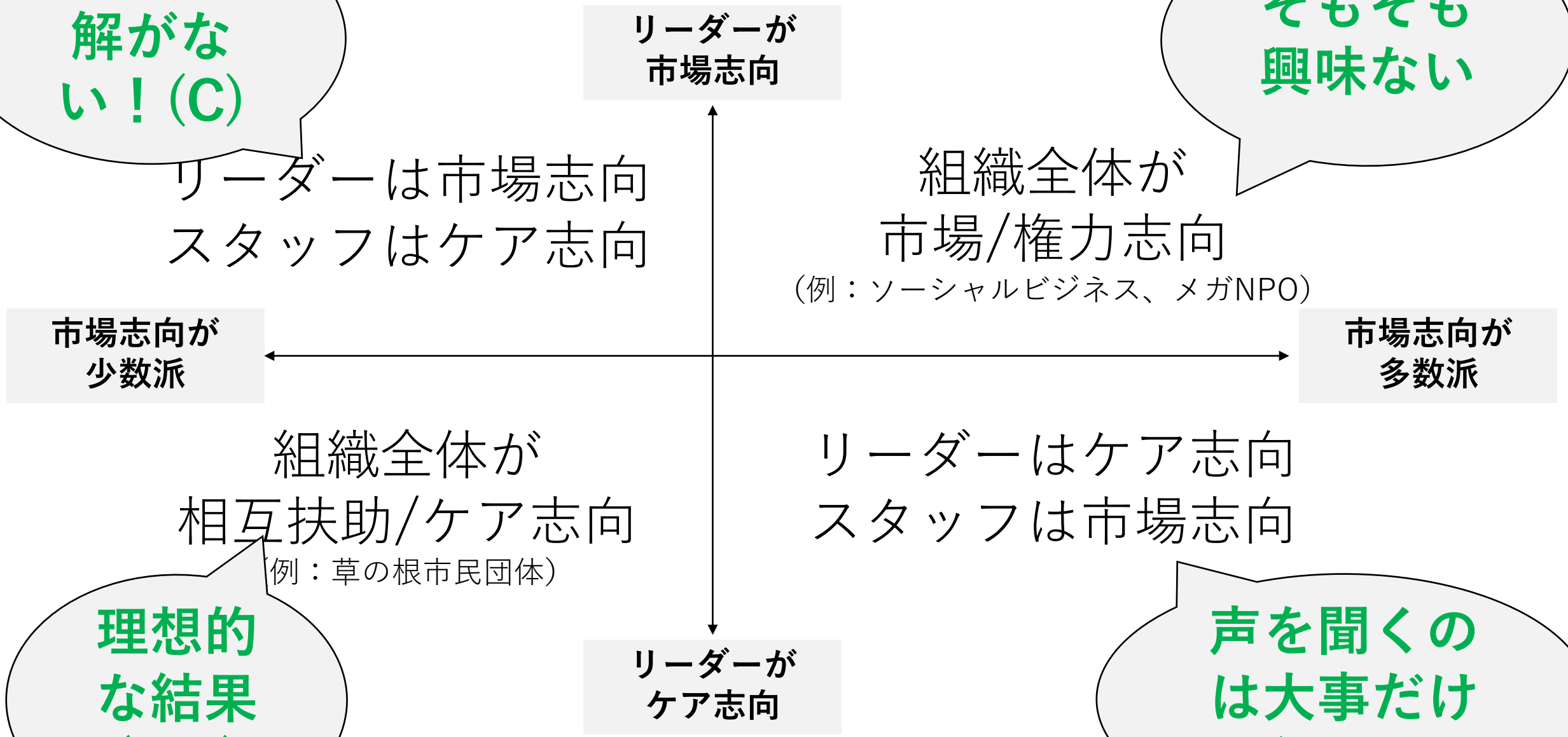
3 ふりかえり評価｜団体文化との関係性



3 ふりかえり評価｜市場化圧力



評価｜ふりかえり評価による変化



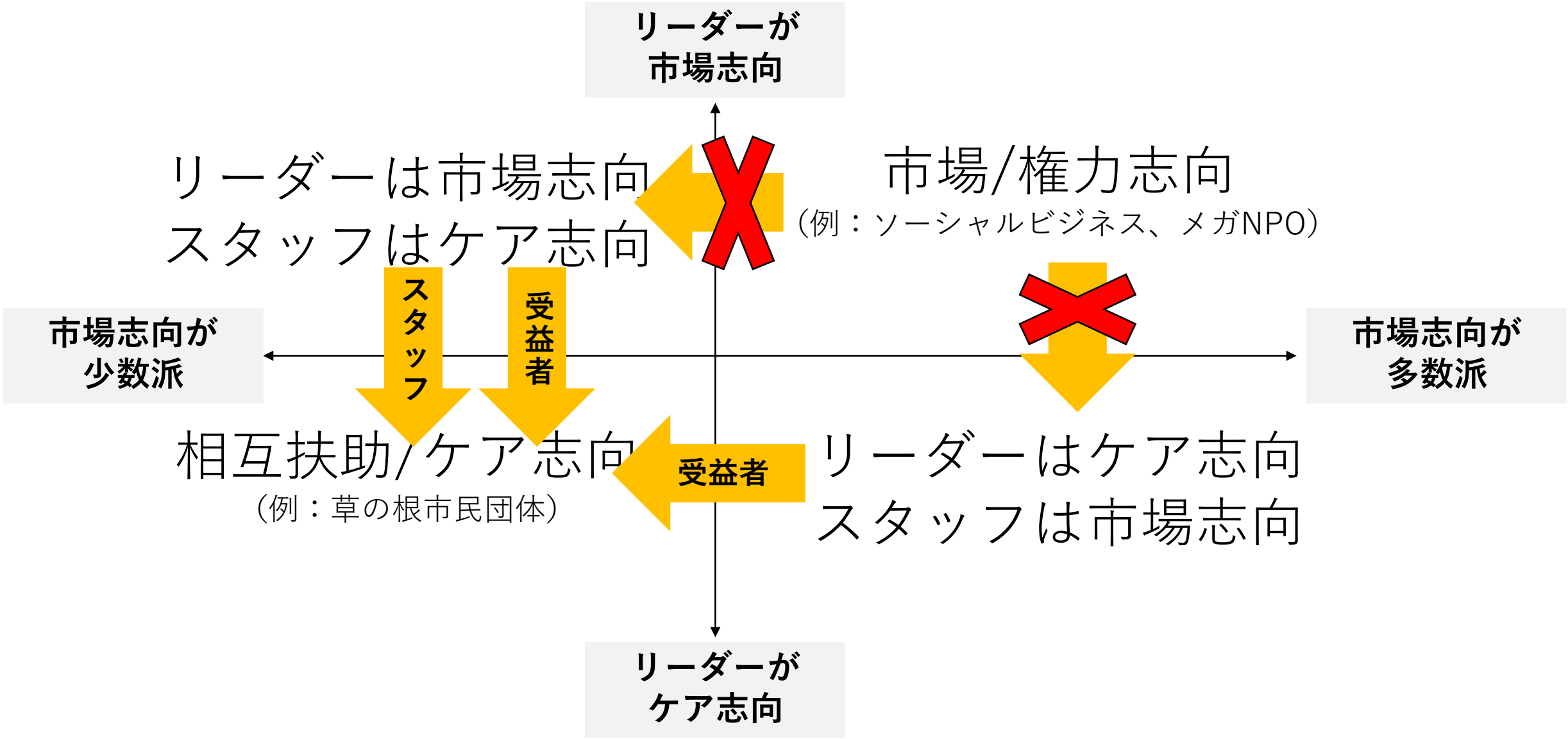
周囲の理解がない！(C)

そもそも興味ない

理想的な結果(A,B)

声を聞くのは大事だけど・・・

3 ふりかえり評価｜機能させるための要素



「政策」という観念(notion)は、他者に己の意向を強要する国家あるいは統治機構を前提としている。「政策」は政治の否定である。

定義上、政策とは、人々の問題について彼らよりも精通しているとされる特権階級的存在によってでっち上げられた何かである。

われわれが政策議論に参加することで得られるのは、せいぜいそれによる損傷を抑えることくらいである。

その前提自体が、人びとが自らの問題を解決するという思想と反目しているのである。

D・グレーバー「アナーキスト人類学のための断章」